

講演「南砺の未来と城端線の価値」要旨

地域エコノミスト
藻谷浩介氏

アメリカ・テキサス州ダラスは人口 350 万人の大都市だが、車優先の町づくりを続けたせいで、かつて人がほとんど歩いていなかった。

成田空港 4 つ分の超巨大国際空港があり、産業も多くあるにもかかわらず、夜になると、治安が悪くて、歩くことができない。食事をする場所もない。店もなく、「核戦争後の地球」のようになっていた。

外から来た人が「テキサスらしいところを」と言っても、連れて行くところがなかった。あのカーボーイたちが楽しく酒場で飲んでいていた町は、どこに消えたのか。マクドナルドとスターバックスしか、なくなっていた。

ダラスでは近年、「町を歩く人を増やさないと、町が死んでしまう」と、多額の税金を投じて、路面電車を作った。3 路線が町の中心で交わって、10 分おきに 6 方面に向かっており、空港へも乗り入れている。

アメリカでは、よその町へ飛行機で行くと、レンタカーを借りなければならない。これが 2 万円ほどと高い。電車なら 300 円で行ける。最近ようやく、各空港へ路面電車が乗り入れ始めている。

もちろん、ダラスの路面電車は大赤字だが、乗る人が増え始めてきた。ジョギングする人もでてきた。町中にオープンカフェやお酒を飲む場所もでき、住む人もでてきた。やっと今になって、町を一から作り直したのだ。

アメリカ全体で見れば、未だに新幹線もできていない。ワシントンとニューヨークは、日本でいうと名古屋と東京の距離だが、電車で 4 時間。値段も 3 万円かかるが、アメリカ人はそれを何とかしようとは思わない。「車が使えればいい」という考えだ。家も、職場も、ショッピングセンターも郊外。だれも歩いていないから、店もなくなり、物も売れない。空地ばかりで固定資産税も入らなくなる。道路をメンテナンスする金もなくなり、橋も維持できなくなる。

日本でも子供に「私の夢の…」を描かせると、ビルがいっぱいで、隣にスカイツリーやディズニーランドがあるような絵ばかりだ。私たちは、子供をそんな風に育ててしまった。富山駅の北口も、ポートルムが走っていなかったら、同じような光景だ。もしかしたら、ダラスは「富山県人の理想の地」だったの

かもしれない。

南砺も、いずれこのままでは、ダラスのようになるのではないか。だれも鉄道を大事だと思っていないし、「死ぬまで、車に乗ればいい」「城端線なんて、要らない」と思っている。せつかく、先人たちが鉄道を作って、車がなくても生活できるようにしてくれていたのに。100年ぐらい後になって、おずおずと鉄道を引き直すのではないか。選択肢がある地域は素晴らしいが、選択肢のない地域はとても貧しい。

確かに、南砺のように、お金がない中で鉄道を残すのは大変だ。「廃止したらどうか」という意見もあるだろう。しかし、道路だって赤字だ。富山県内の道路は、みんな赤字だろう。

「道路は廃止できないが、鉄道は廃止してもいい」という意見が多いが、「道路が赤字だ」ということは、意外に知られていない。「バイパスができたから、旧道は廃止しろ」と言われたら、どうするか。同じ赤字なのに、鉄道と道路はどう違うのか。道路は赤字でも要らないとは言わないのに、なぜ鉄道は赤字になると要らないと言うのか。高岡駅で、乗客が座れないほど混んでいる鉄道を、なぜ赤字だから廃止というのか。これはもう「頭の病気」だ。

「利用が少ないから」という意見もあるが、人数で価値が決まってもいいのか。全国で多数決をやったら「富山県は、だれもいなくなった方がいい」という意見になりかねない。富山県には「五箇山の世界遺産しかいらぬ」と言われたら、どうするのか。「儲からないものは止めろ」と言われると、老人病院が一番に要らなくなる。いつから、金勘定が価値判断の基準になったのか。「採算が重要だ」と言い出したのか。

車は、買うと100万円、200万円と高額だし、車検を含めると年間20万円から30万円かかる。一人で乗ると、電車より高い。道路がタダで使えるから、元を取ろうと乗り続けている。

確かに有料道路以外、タダだが、通行料の要らない能越自動車道も、税金をかけて維持している。道路を作り維持できるのは、道路特別会計でガソリン税から莫大なお金を出しているからだ。ガソリン税は、税率も高い。だから、道路は作りやすい。

日本、アメリカ以外の国では、鉄道も税金で作っている。中国で新幹線がどんどん建設されるのは、このためだ。韓国の新幹線も、鉄道公社が路盤を持ち、三セクが走らせている。道路や鉄道は、税金で作るのが常識なのだ。港の岸壁も同じ。富山新港の立派な橋も、だからできた。

ガソリン税のうち1%でも鉄道に回すと、鉄道は維持できる。そうできないと

思っているのは、国民が洗脳されているからだ。日本とアメリカは、そんなことを考えもしなかった。

鉄道が復活しているのは、先進国共通の傾向だ。日本の高齢者だけが、それに気がついていない。彼らの世代は、車を持つのが夢だったからだ。

もし加越線が庄川温泉まで残っていたら、「アニメの聖地」になったかもしれない。城端線は、加越線と違って廃線にならなかった。せつかく、先人が作ってくれたものがあるのなら、残しておいた方が得だ。たまに乗って見たら、意外に便利だし、多くの人が乗っている。

高校や大学、図書館も、駅の横に作るべきだ。「電車に乗らないから反対」という人がいるが、駐車場完備にすればいい。「高校生はスクールバスでいい」「病院は福祉バス」「買い物はショッピングセンターの送迎バス」なんて、自分を判断基準にするのは止めてほしい。

これからの日本経済に重要なのは、外国人観光客だ。その外国人観光客にとって、鉄道は重要な交通機関だ。

南砺市の世界遺産、五箇山合掌集落にも、台湾の人が多く訪れている。城端線で来て、世界遺産バスに乗る人がいる。そのついでに、シックな城端の街を見てもらえば、喜ばれるのではないか。鉄道のあるなしが、地域のお客さんの数を左右するのだ。

知らない人が多いが昨年、アメリカ人の 260 人に 1 人が、日本に来ている。中国人は 220 人に 1 人、中国はアメリカの 5 倍の人口があるから、日本は中国人だらけになった。韓国人は 10 人に 1 人。「韓国人は日本人が嫌い」と思っているかもしれないが、嫌いならこんなに来ない。台湾人に至っては 6 人に 1 人で、東京へ出かけた富山県人より多いのではないか。香港人は 4 人に 1 人だ。

シアトルより遠いオーストラリアでさえ、54 人に 1 人。オーストラリア人は、湿気のある緑豊かな土地が大好きだ。今後、外国人観光客は、もっと増える可能性があるが、鉄道がなければ、来てもらえない。

だから、皆さんには、「俺が乗らないから要らない」「赤字だから要らない」の二つは、言わないでほしい。あなたが「世界」ではない。赤字は、道路の方がひどい。

世の中の浅はかな風潮に、「おかしい」と言ってほしい。